



シリーズ「新しい時代の幕開け」

鉄腕アトムからドラえもん

校長 笠井 猛雄



令和時代が幕を開けました。

令和最初の全校朝会で、子どもたちに「鉄腕アトム」を紹介しました。知っている子も何人かいました。

「鉄腕アトム」は、今から68年前の1951年、『少年』という雑誌に連載された漫画の主人公で、内蔵された7つの力を使って世界の平和のために戦います。

作者は、手塚治虫(1928-1989)さんです。戦後日本においてストーリー漫画の第一人者として、漫画の草分け的存在として活躍された方です。代表作品として、『鉄腕アトム』をはじめ、『ジャングル大帝』『リボンの騎士』『火の鳥』『ブラック・ジャック』などがあります。私自身、幼少期に手塚治虫さんの作品に触れ、その中でもやはり「鉄腕アトム」の影響は大きく、「アトムのようなロボットが実際にいたらいいなあ」と思っていました。

「鉄腕アトム」の連載が始まった当時、手塚さんは世間から「日本に高速列車や高速道路なんて造れるはずがない!」「ロボットなんてできっこない!」「荒唐無稽だ!」などと批判され、「手塚はデタラメを描く子どもたちの敵だ!」とまで言われたそうです。そんな批判の嵐の中でも、手塚さんはあきらめずに「鉄腕アトム」を描き続けました。

さて、「鉄腕アトム」の誕生から約50年後の2000年、あるロボットが誕生しました。世界初の本格的な二足歩行ロボット「ASIMO」(本田技研工業)です。漫画の中の「鉄腕アトム」の誕生日は、2003年4月7日なので、それとちょうど同じ頃に、「ASIMO」は誕生したことになります。

幼少期に「鉄腕アトム」に触れたことがロボット技術者を志すきっかけになった人も多くいるそうです。その人たちにとっては、「鉄腕アトムを作りたい!」という夢が「ASIMO」によって実現したことになります。

その後、「ASIMO」君には、たくさんのライバルが登場しています。その一人が、ソフトバンクの「Pepper」君です。日本のロボット技術力は加速度的に進み、「Pepper」君は、人の声や顔の表情から、その人の気持ちを理解したり、自分の気持ちを表現したりすることができます。



最後に、子どもたちにお馴染みのロボットを紹介しました。子どもたちに夢を託します。

「ドラえもん」の誕生日は「2112年9月3日」です。あと100年くらい先の未来に誕生する予定ですが、「ドラえもん」を作ることはできるでしょうか。「タイムマシン」「どこでもドア」「タケコプター」「暗記パン」などができると、世界中の人が喜びますよね。

令和時代はみなさんの時代です。そこで、みなさんに期待します。

「ドラえもん」を作りたいという人はいませんか。世界の人々のために、「ドラえもん」という夢を、少しでも実現してくれることを期待します。



「鉄腕アトム」という夢や目標があったから、「ASIMO」は誕生しました。

例えば「ドラえもん」を作るなど、今は誰もが「無理だろう」と思うような大きな夢や目標をもち、自分の夢に向かって頑張り、その夢が大きく花開くことを願っています。

令和時代は子どもたちの時代です。

夢は大きく、可能性は果てしなく広がっています。

5月18日(土)、トキっ子大運動会に多数の皆様からお越しいただきありがとうございました。令和時代のスタートにふさわしく、思い出に残る運動会となりました。地域対抗競技への参加、準備・後片付けなど、保護者の皆様から多大なご支援とご協力をいただき、感謝・感激・感動の1日となりました。本当にありがとうございました。